

# ヒトは 描くときに 何を見ているか

10/9 - 10/14

東京藝術大学大学美術館 陳列館

主催：芸術 × 科学プロジェクト

共催：新学術領域「多元質感知」

助成：JSPS/科学研費補助金 15H05918

【コンピュータビジョンで実現する多様で複雑な文脈の認識機構】

ヒトは描くときに何を見ているか



2019年10月9日(水)～10月14日(月祝)  
10:00～17:00 (入館は16:30まで)  
東京藝術大学大学美術館陳列館2F  
観覧無料

プロジェクト  
「質感知」  
15H05918  
「実現する  
認識機構」



日本に西洋美術が輸入されて以来、美術教育の現場では石膏像(複製)を対象としたデッサン(素描・写生)が学生のカリキュラムとして定着しました。日本美術教育の中枢機関として設置された東京美術学校(現東京藝術大学美術学部)の入学試験では石膏像などを対象としたデッサンが課され、現在でも日本の美術・芸術系大学の多くはデッサンを入学試験課題としています。



2019年  
10:00  
東京藝術  
観覧無

主催：芸術 × 科学プロジェクト  
共催：新学術領域「多元質感知」  
助成：JSPS / 科学研究費補助金15H05918  
「コンピュータビジョンで実現する  
多様で複雑な質感の認識機構」

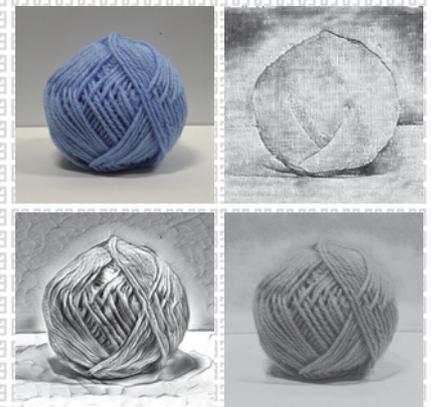


世界をありのままに、写実的に映し出す技術は、デッサンや絵画を描くヒトのわざだけでなく、デジタルカメラやVRを含むコンピュータグラフィックス技術の進歩によって、より高精細に、より正確に、より客観的に表現することが可能になりました。また、ディープラーニング(深層学習)をはじめとする機械学習の発達により、スマートフォンで撮影した写真を、誰でも簡単にゴッホ風やピカソ風、デッサン風に加工できるようになっています。

4日(月祝)  
16:30まで)  
陳列館2F



本展では、従来のディープラーニングを用いた画像自動化システムに、芸術家が培ってきた世界を描き出す技術と経験、勘を加えることで、対象の光沢感や透明感、材質感といった質感を伴ったデッサンをAI技術によって再現することに挑戦しています。デッサンの画像解析を用いて、写真から生成したデッサン(AIデッサン)を多数展示し、コンピュータが、ヒトが視る・感じる世界に近い、多様で複雑な質感表現に迫っていきます。



主催  
共催  
助成：  
「コン  
多様

ヒトは描くときに何を見ているか

2019年10月9日(水)～10月14日(月祝)  
10:00～17:00 (入館は16:30まで)